



本殿 脇障子彫刻 手長足長(左)



本殿 向拝側面彫刻 竹に亀(左)



上田市有形文化財  
安良居神社本殿

安良居神社は、丸子地域の氏神です。本殿は多くの彫刻を用いて社殿を飾ることが流行した江戸時代末期の建築で、諏訪の宮大工、二代目立川和四郎富昌の作です。左右の脇障子にほどこされた手長と足長のユーモラスな像や、柱に掘られた竜・唐獅子・ぼたんなどの美しい彫刻に飾られた社殿です。

特に、脇障子の「手長・足長」は、それぞれ異様に手足の長い神様が彫刻されており、全国的にも珍しく一見の価値があります。上田市浦野の東昌寺鐘楼とともに、上田・小県地方の立川流建築の双壁であるといえます。

全国でも、脇障子彫刻「手長足長」は、山梨県の北杜市「下教来石諏訪神社」の2か所のみと伝わる貴重なものです。

● 言い伝え：いわれ ●

脇障子の「手長・足長」は、ヤマタノオロチ退治の神話に登場する手名稚(てなづち)と足名稚(あしなづち)という夫婦神から由来されるといわれており、宮殿内などに姿を描くことによって天皇の長寿を願ったものという伝説もあります。



本殿 向拝側面彫刻 松に鶴(右)



本殿 脇障子彫刻 手長足長(右)



昇龍の海老虹梁



摸 左

摸 右

立川和四郎富昌

(たてかわわしろうとみまさ)

1782～1856 諏訪郡下桑原村(現諏訪市)の和四郎富棟の長男。活動地域が広範で作品の数も非常に多く、立川流の建築彫刻の作風を確立し、社会的にも高い評価を受けました。



二代目 立川和四郎富昌 肖像  
立川流彫刻研究所より



木曾義仲が必勝を祈願して笠懸を奉納したと伝えられています。その際に使用した矢が当社に奉納され大切に保管されています。

(写真右から2点目)

お願い

本殿は、特別開放期間でないと参拝できません。見学は、要予約となりますので、ご注意ください。